扶桑讀本

尋常科用

二之上

不認定等

K120.8
66
2.1

K120.8
66
2.1

扶桑讀本

尋常小學科用

扶桑讀本第三

第一　舟

子は、あいらしい。これは、女の子なり。女の子は、なにをなせるか、あつきかみにて、舟を

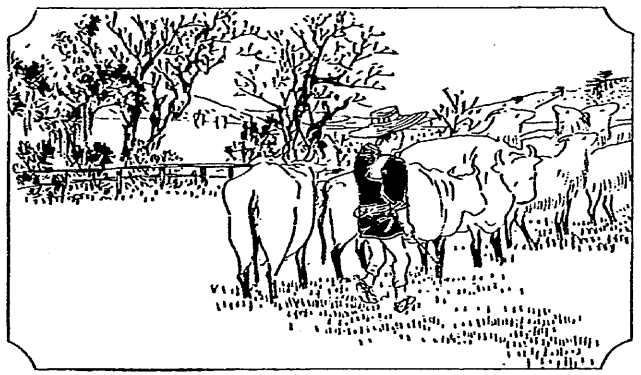
舟、作

作れり。

かみの舟は、水にうかばず、水にぬるれば、しづむものなり。うみ川などにうかぶ舟は、木にて作り、人やにもつをつみゆくなり。

第二　牛と羊

時　午　羊



イマハ、ナン時ナルカ。イマハ、午ゼン七時ナリ。

一人ノヲトコアリ、牛羊ヲヒキツレテ、マキバニユカントス。

羊ハ、オホク、牛ハスクナシ。
牛ニユウハ、ヤウジヤウニヨロシク、羊マウハ、フデトナリ、マタ、オリモノトナルモノナリ。

重習 羊も牛も、あうべり。女子は、舟を作れり。

第一日 東にある時は、午ぜんなり。西にある時は、午ごなり。

第三　魚ツリ

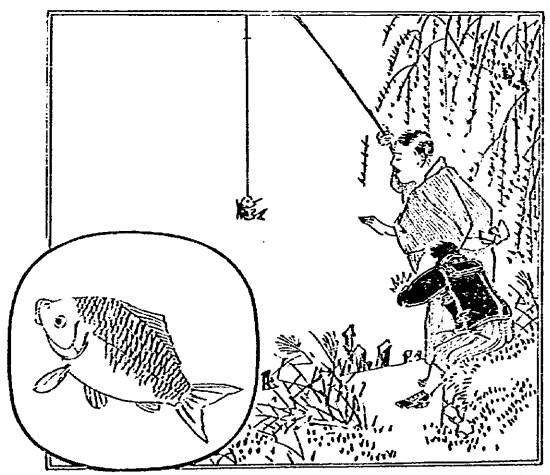
今日は、よき天きにて、あたたかなり。

大人と子どもとは、川の魚をつれり。

大人

魚

此二人は、父



と子となるべし。

今、彼の父のつりたる魚は、大なるふななり。

子は、大によろこび、魚をとらへて、かごにいれたり。

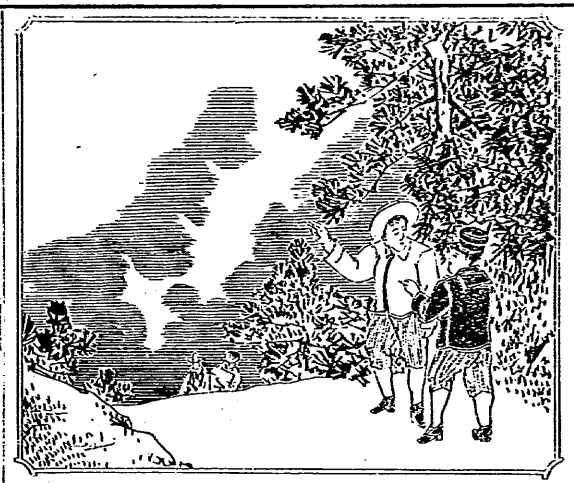
彼らは、いかに、よろこばしからん、大なる魚を、つりにて。

雲

明日

雨

第四　雲



アレヲミヨ、ソラ一メンニ、クロ雲出デキタレリ。

明日ハ、雨ナラン、クロキ雲オホキトキハ、ツ

子ニ雨フルナリ。

雨ハ、チニオチテ、水トナルモノナリ。

イケノ水モ、川ノ水モ、モトハ、ミナ、雨ナリ。

重習第二

大人は、魚をつれり。子どもは、うばにあうぶ。

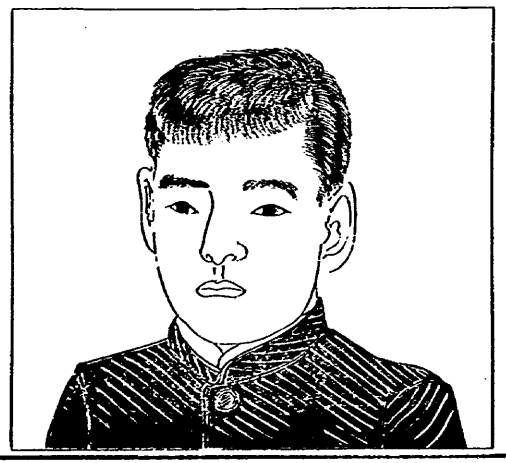
今日は、山に、明日は、川にゆく。

雨ふらん、天に、雲みてり。

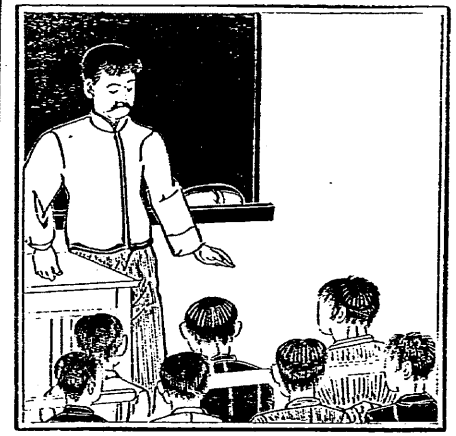
目　耳

第五　カホ

人のかほには、二つの目、二つの耳ありて、目は、ものをみ、耳は、ものをききます。又、人のかほには、



一つの鼻と、一つの口とありて、鼻は、にほひをかぎ、口は、こゑを出し、のみくひをします。目と耳とは、二つなれど、口は、一つなれば、ことばは、みきくごとくに、たほくしては、なりませぬ。



第六　學もん

學校ニユキテ、學モンヲスルハ、ナニノタメデ、アリマスカ。人人ノシゴトニ、フジイウナキタメデアリマス。ヨミカキ

ヲシラザルトキハ、オロカナル人トナリマス。

學校ニテ學ブコトハ、ナニモ、大セツナルコトデアリマス。

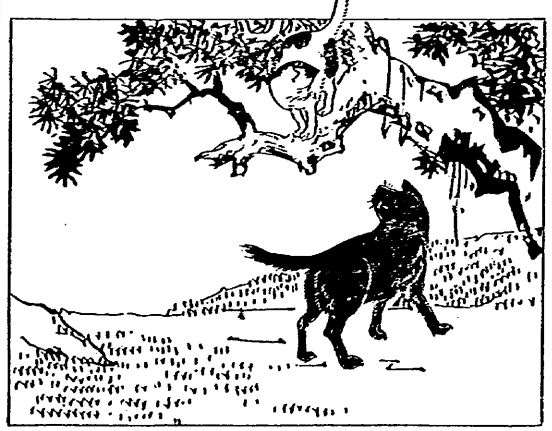
重習目は、み、口は、いふ。鼻は、かぎ、耳は、きく。

第三學校は、學もんをするところなり。

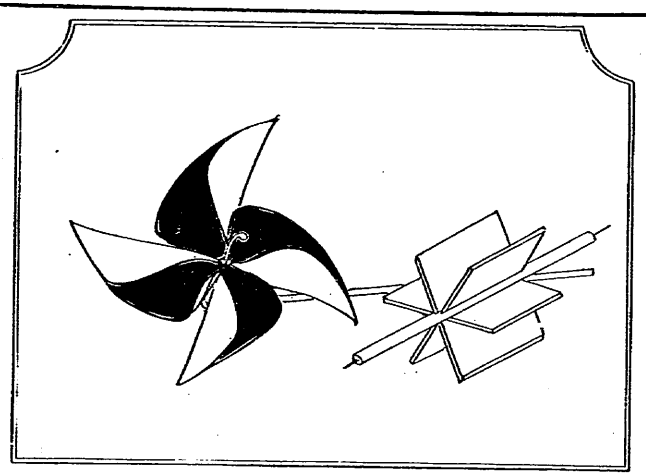
小猫

第七　大ナル犬ト小ナル猫

大なる犬と、小なる猫とあり。小な猫は、犬にはれて、木の上にのぼれり。犬は、木にのぼることあた



はざる故に、木の下にをる。犬は、なに故に、のぼることをにざるか、其身大きくして、するどきつめをもたねばなり。猫は、其身小くして、するどきつめをもつ故に、よくのぼることをうるなり。



第八　風車と水車

ミヨ、風グルマト、水グルマトアリ。此風グルマハ、紙ニテ作リ、竹ノサキニテマハレリ。

彼水グルマハ、木ニテ作リ、イタニテ、ハ子ヲツケタリ。水グルマハ、水ノチカラニテマハリ、風グルマハ、風ノチカラニテマハル。

重習第四

小猫紙水ぐるま

小なる猫と、大なる犬とあり。猫の目は、つねにかはるなり。にて、風ぐるまを作り、木にて、

尺
絲

第九　縫物

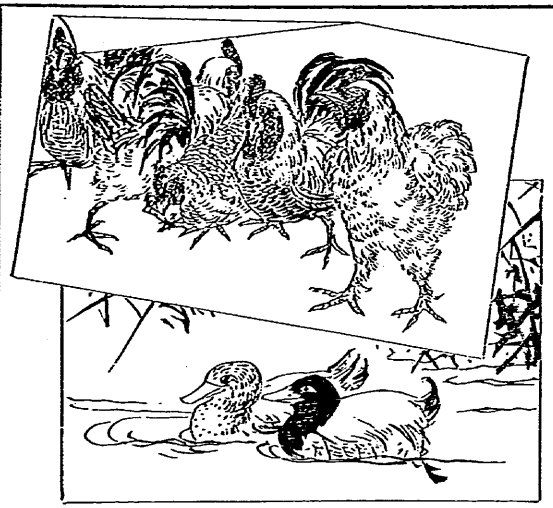
二人の女が、ぬひものをなせり。此は、母と少女となり。少女は、尺をもち、母は、絲をはかれり。

尺のとなへは、十すんを、一尺といひ、十尺を一丈といふなり。

女の子は、尺、はり、絲などのもちひかた、ぬひもののしかたを、よくしらざれば、人にうしりわらはるることあり。

鳥　足

第十　水鳥



此川ノ中ニ、ウカベル鳥ハ、ナニナリヤ。此ハ、アヒルナリ。アヒルハ、水鳥ニテ、足ニ、水カキアリ。

ニハトリハ、川ギシニアソビテ、水ニ入ラズ。コレ、ニハトリハ、水鳥ニアラ子バナリ。アヒルハ、水ノ中ヲオヨギ、魚ナドヲトリテクラフ。

重習第五

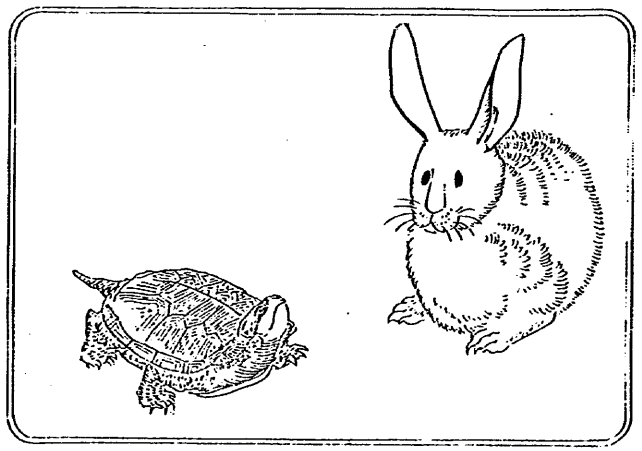
絲の長さを、尺にてはかれ、一尺か、一丈か、はた一丈一尺か。

水鳥の足には、水かきあり。水をれよぎて、魚をとらふ。

第十一　兎トカメ

兎　歩

一日、兎とかめといであひて、兎は、かめの歩みのれろきをあなどり、さまざまと、かめ



池

をののぐれり。

かめは、心に、にくしとれもへど、いかりをみせず、兎にむかひて、彼山のあなたに、池あり、はやくかしこに、とどきたるものを、かちとせんといひければ、兎は、すぐに、

立心高

かめのぐみにまかせたり。

第十二　ッヅキ

兎は、かめとれなど時に、出立てり。

兎は、心の中に、かめをあなどり、一時に、山の高みには

せのぼり、心よくねむりたり。兎は、目さめて、いうぎ、かめをたづね、池のほとりにちかづけば、かめは、さきにとどきて、其をこたりを、わらひきとぞ。

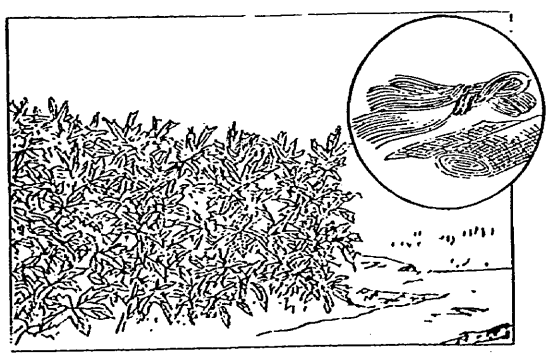
重習第六

此かめの歩みは、ねうく、彼兎の歩みは、はやし。小なる池、大なる高き山にあり、よき心は、人のたからなり。

麻　長　苧

第十三　麻

ハタニ、麻ヲウヱタリ。麻ノ、ヨクセイ長シタルトキハ、是ヲカリトリテ、カハヲハギ、苧ニセイシ、苧ヲウミ、絲ヲ作リテ、



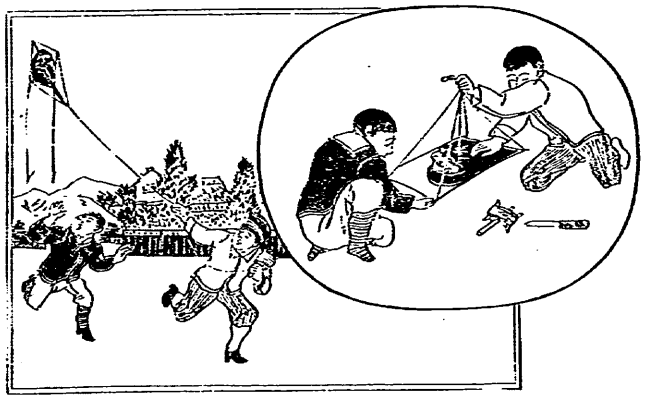
布

布ヲオル。布ハ、イロイロノヨウニタツモノナリ。

兄弟
凧

第十四　凧

兄と弟と、凧を作りてをります。兄は、ひろきかみに、ゑをかき、弟は、たけをけづり、ほねをこしらへてゐます。



兄のかけるゑは、きれいにて、弟のけづれるほねは、よきほねであります。

其のち、兄弟は、凧をはり、麻絲をつけました。

今日は、風がふきますから、凧は、高く上りませう。凧をあげるは、よきあそびでありまず。

風風ふけよ、凧凧上れ。

重習第七

麻絲は、苧をうみて作り、麻絲にて、布をれる。

中よき兄弟あり。兄と弟と、凧を上げて、あそぶ。

第十五　美しき花

美花

キミハ、池ノ中ニ入リテ、ナニヲナサントスルカ。ワレハ、美シキハスノ花ヲトラントス。

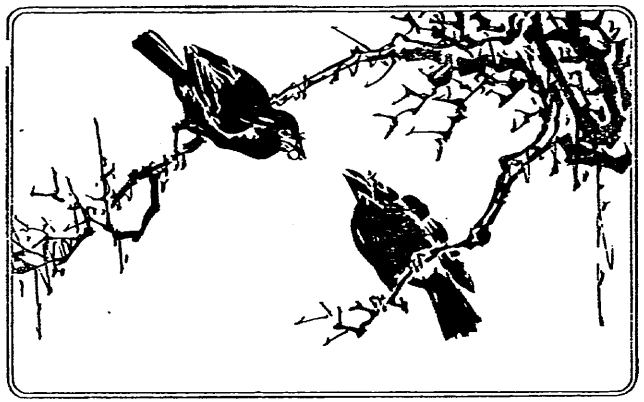
池ハ、中ニ入ルホ

ド、フカク ナルナリ、ヨク キヲツケテ ユクベシ。

キミノ 左ノ手ニ、モチタル 花ハ、ウツクシキ 花ナラズヤ。シカリ、大キク シテ、美シキハ スノ花ナリ。

第十六　二羽ノ鳥

羽鳥



木のはだにをる、二羽の鳥は、なに鳥なりや、これは、烏なり。一羽は、たや烏にして、一羽は、子烏なり。子烏の、ゐをとり

不

きたりて、たや鳥に、くはしむるをみよ。此鳥は、はなはだかうかうなる鳥なり。

人として、不からならば、鳥にだも、たとるものといふべし。

重習

木にさける美しき花。口入れり。すにかへる、十羽の鳥。

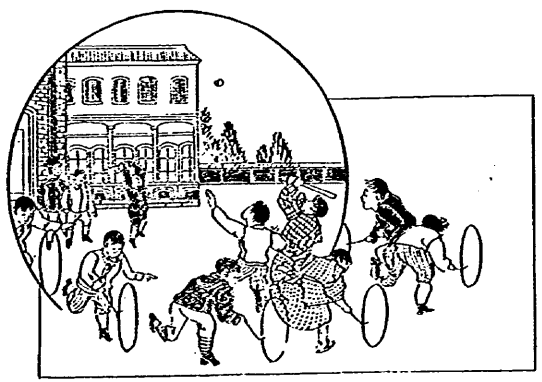
第八

不からの人は、人にして、人ならず。

遊歩
子供

第十七　學びてのち遊べ

此ハ、學校ノ遊歩バナリ。子供ハ、オモシロク遊べリ。學ビテノチ遊ブハ、コトニオモシロキモノナリ。



眠

彼子供ハ、眠リテヲルナリ。學ビテノチ眠ルハ、コトニココロヨキモノナリ。サレバ、學ブトキハ、ヨク學ビ、遊ブトキハ、ヨク遊ビ、眠ルトキハ、ヨク眠ラ子バナラヌモノナリ。

第十八　黑田長マサ

黑田馬

此馬にのりたる、をさなき人は、黑田長まさが、まだ十さいのをさなき時、父にしたがひ、いくさにゆきたる時のさまなり。

刀

馬にまたがり、刀をわびたるは、をさなくても、たけきさまあり。

馬の口をとりたる人は、黒田長まさがけらいなり。

重習第九

子供は、よく眠れ、よく遊べ、又、よく學べ。

黒田長まさは、馬にのり、刀をわびたり。

日

第十九　黒田長まさ

長マサノ父、一人ノケライヲヨビテ曰ク、此タビノイクサ、アヤフシ、長マサヲツレテ、クニニユケト、馬ヲメシテ、是ニノセ、

男子

ヂンヤヲ、サラシメケリ。
長マサ、ミチニテ、コレヲキキ、オドロキテ曰ク、父ノヲシヘニ、男子ハ、ススムコトアリテ、シリゾクコトナシト、ワレ、今、イカデカヘルベキヤトテ、フタタビ、父ノトコロニユキ

名
柿
四郎
梯子

タル、名高キハナシアリ。

第二十　柿ノ木

此柿の木の下にきたれるは、四郎と、五郎となり。四郎は、長き梯子をのぼりて、大なる柿をとれり。

五郎は、手に、かごをさげて、四郎のとれる、たほくの柿をうけ入れたり。

此二人は、柿をもちかへりて、兄弟にわけあたへたり。

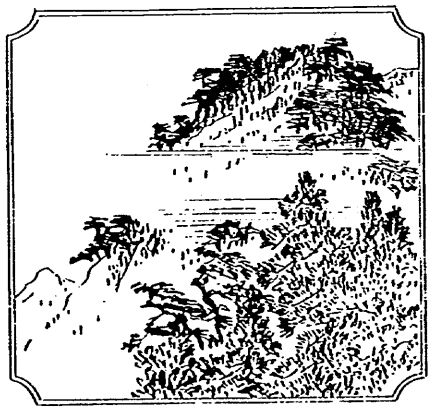
重習第十

長き梯子を、高き柿の木にかけたり。二人の名を問うて曰く、いづれが四郎なるか、五郎なるかと。

林
松
杉

第二十一　林

雲ニカクルルタカキ山、目ニアマル大ナル林アリ。林ノ中ニハ、松ノ木シゲリ、杉ノ木シゲレリ。大ナル松ヤ、大ナル杉ハ、



オク山又ハ深キ林ニオホクシテ、イヘ、舟、ダウグヲ作ルナドハ、ミナ、此ザイ木ヲモチフルモノナレバ、山林ハ、大ナルリエキアルモノナリ。

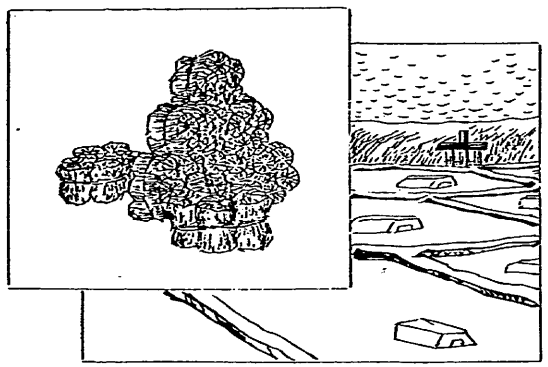
第二十二　鹽

鹽汝味

汝は、鹽の味をしれりや。

海

鹽は、其味、はなはだからし。



汝は、海の水をしれりや。海は、其水、はなはだからし。人人の、日日、もちふる鹽は、此海の水より取りたるものなり。

鹽をつくるには、鹽田を作り、海水をくみとりて、鹽がまに入れて、やくものなり。

鹽は、一日も、かぐべからざるしよくもつなり。

重習第十一

山林には、松杉しげり、鳥ドゆうすむ。

海水の味は、鹽からし、汝は、これをしれりや。

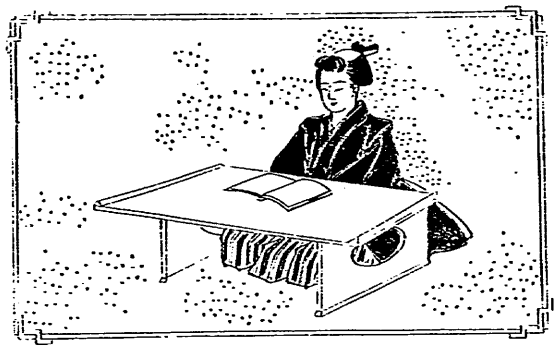
泰山

第二十三　小川泰山

小川泰山ハ、ヲサナキ時ヨリ、學モンヲコノミテ、雨ノフル日モ、風ノフク日モ、ヤスムコトナカリキ。

道　家　見

泰山、七サイノ時ナリキ、一日、道モシレヌホドノ大雪ナリシモ、カサヲカブリ、本ヲタヅサヘテ、ワガ家ヲ出デユケリ。雪ハ、マスマス、フリツモリ、道ハ、イヨイヨ、見エズナリ、カブリシカサノ雪オモク、アヤ



マチタフレテ、足ヲソコナヒケレバ、人人タスケオコシテ、家ニカヘランコトヲススメシカド、泰山ハ、イツモノゴトク、センセイノ家ニユキ、ツ子ノゴトク

二、學ビタリトゾ。

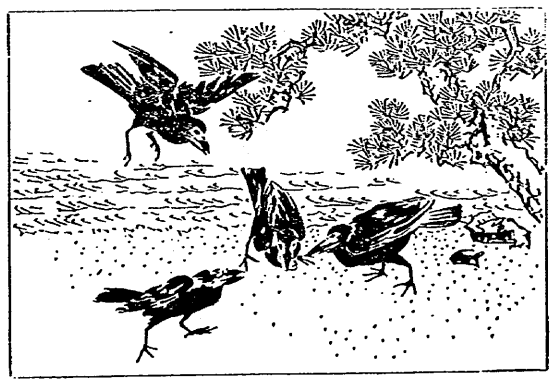
ヲサナキ時ヨリ、學モンヲスルコト、此泰山ノゴトクナラバ、ユクスエ此泰山ノゴトク、多クノ人ニアガメラルベシ。

重習第二十

泰山のごとく、學もんして、家をれとすべし。道も、見にぬほどに、多く、雪ふりつもる。

第二十四　カシコキ鳥

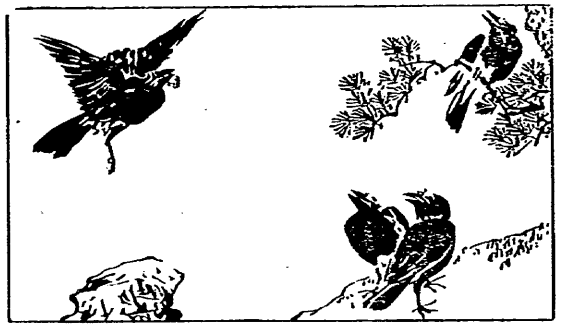
二三のともと、一日、海のほとりに遊びたり。其時、多くの鳥あつまりきて、一つの貝を、あらろひ啄むを見たり。



食

一つの貝は、口をかたくとぢたれば、鳥は、いかにすとも、其にくを食ふことあたはざりき。多くの鳥は、貝がらをわり、其にくを食はんとしたれど、いかにしても、此をわることあたはぬさまなりき。

岩



其時、一羽の鳥は、貝をくはへて、高くとびあがり、岩を目がけて、はるかのうらよりたとしければ、貝は、あへなく、みぢんにわれくだけたり。

羨　廻

一羽の鳥は、いろがはしくとび下り、貝のにくを食ひたれば、多くの鳥は、羨ましきさまにて、かなたこなたをとび廻れり。

重習第三十

鳥の、貝を啄むを見よ。鳥は、とび廻りて、岩の上にあり。食の美なるを羨まず、心の美なるを羨むべし。

獸　鹿

第二十五　鹿

此獸ハ、ナニナリヤ。コレハ、鹿ナリ。

汝ハ、鹿ヲ見タルコトアリヤ。

鹿ハ、山ニスム

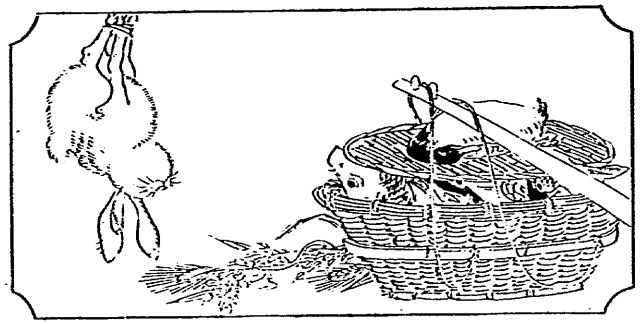
角

獸ニシテ、足、長クシテ小ク、山ヤ野ヲハシルコト、スミヤカナルモノナリ。

鹿ハ、角アルモノヲ、ヲ鹿トシ、角ナキモノヲ、メ鹿トス。

其ケハ、美シク、カハト角トハ、モロモロノサイクニモチフ。

米、麥



第二十六　食モツ

身をたもつにたいせつなるは、食もつなり。食もつには、こくるゐ、にくるゐなどあり。

こくるゐとは、米、麥

などにして、にくるぬとは、魚にく、鳥にく、獸にくのるぬなり。

これらは、みな、身のやしなひとなる食もつなり。

重習第十四

鹿は、身高く、足長き獸なり。鹿の角は、道ぐをつくるに用ふ。米、麥は、食物となるものなり。

坂、車
引
何

第二十七　坂に車

彼男ヲ見ヨ。此ケハシキ坂ニ、車ヲ引キ上ゲントセリ。

彼車ニハ、何ヲツンデヲリマスカ。

アレハ、米デア

リマセウ。

彼ノ手足ノモヤウヲミタマヘ、チカラノカギリ、アセヲナガシテ、引テヲリマス。

彼男ノ車ハ、坂ヲ引キ上ゲヲハルマデハ、シバシモ、休ムコトハ、デキマセヌ、モシモ、

手ヲハナスナラバ、タチマチアトヘモドリマセウ、故ニ、彼男ハ、如何ニツカレテモ、休ムコトナク、ハタライテヲリマス。

汝ラノ學モンスルモ、彼ノ、坂ニ車ヲ

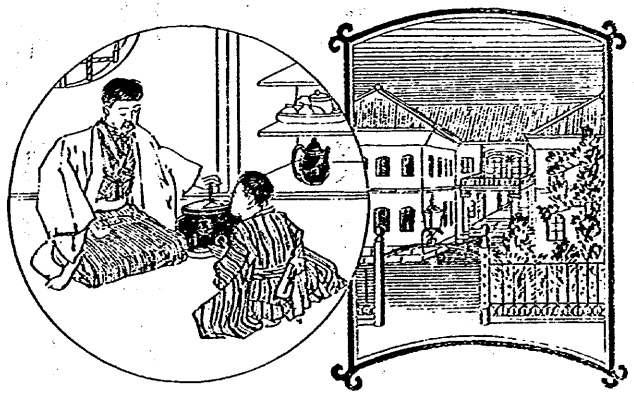
引クガゴトク二、一日ニテモ、休ミナバ、タチマチ、アトヘモドルコト、ウタガヒ、ナカラン。故ニ、日日、ヲコタリナク、ツトメ子バナリマセヌ。

重習第十五

學もんは、坂に車を引く如し。今日、學ばずして、らい日、ありと、いふことなかれ。

第二十八　學校

學校は、字をならひ、しよを學ぶところなり。字をならひ、しよを學ぶは、人の道を修めんがためなり。



春色

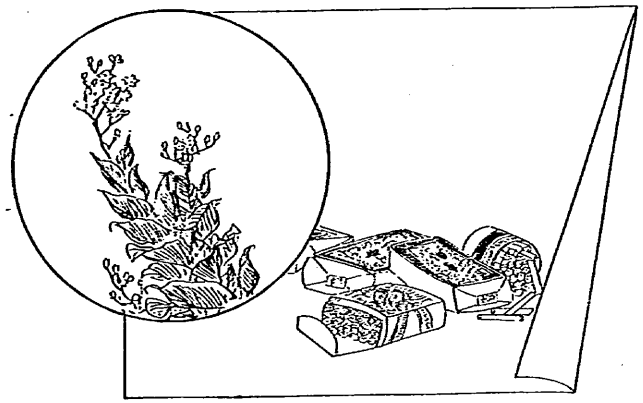
汝は、何時、はじめて、學校に入學せしや、多くは、きよねんの春ならん。

今は、色色の字をたぼに、修身のことをならひしならん、つとめてならひ、はげみて學べ。

第二十九　烟草

烟草畑

烟草葉



此畑ニウヱタルハ、烟草ナリ。

此烟草ノセイ長シタル葉ヲカワカシ、是ヲキザミテ、作レルモノヲモ、烟草ト名ヅク。

烟草ハコノミテスフモオホケレド、是ヲノメバ、身ニガイアリ。其セイハウニヨリテ、名ヲコトニス。キザミ烟草、マキ烟草トウナリ。

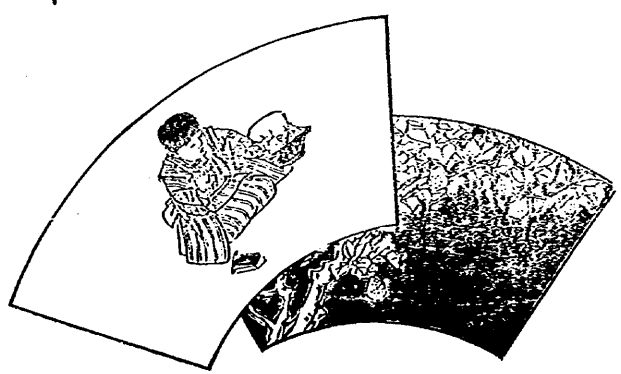
重習第十六

身を修め、家をととのふべし。
春は、草あをく、烟しろし。
此よき春のけ色を見よ。

第三十　梨の手紙

八郎の家に、多くの木あり。此木は、うめ、もも、梨、柿などなり。

八郎は、梨の實をちぎり、其梨に、



此梨一かご進上仕い間
由受取下され度候
九月二十日　大林八郎
中川長一様

と、かける手紙をうへて、たくりたり。長一は、其手紙と、梨とをうけとり、

返事

見事の梨澤山由たくり
下されありがたく存い
九月二十日　中川長一
大林八郎様

大林八郎様　中川長一
表　返書

と、返事を作りて、たくりたり。

此八郎と長一とは、たなゞ學校のせいとにて、なかよきともだちゆゑに、さうはうより、時時、めづらしきものをたくることあり。

重習第七十

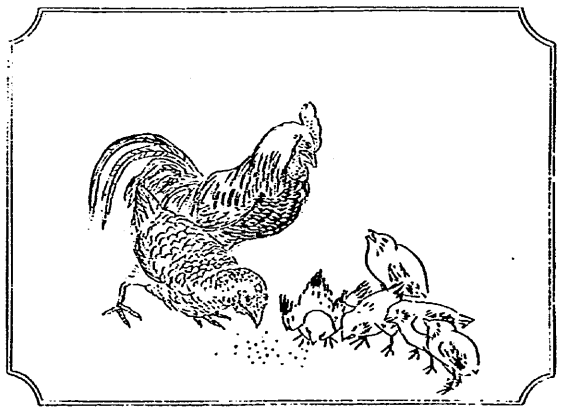
見事なる梨の實と、紙にのせたり。手紙のきたる時は、ぢきに、返事をせよ。

愛

第三十一　にはとり

此愛ラシキニハトリヲミタマヘ、多クノヒナヲヒキツレテ、遊ンデ井マス。

大ナル鳥ハ、小ナル鳥ニ、エヲ



サガシアタヘテヲリマス。此ハ、オヤ鳥ニシテ、小ナル鳥ハ、ミナ、其子デアリマス。

汝等ノ、父母ニ愛セラルルコトハ、一キハフカシ、イカニシテ、其フカキ恩ニムクイマスカ。

恩

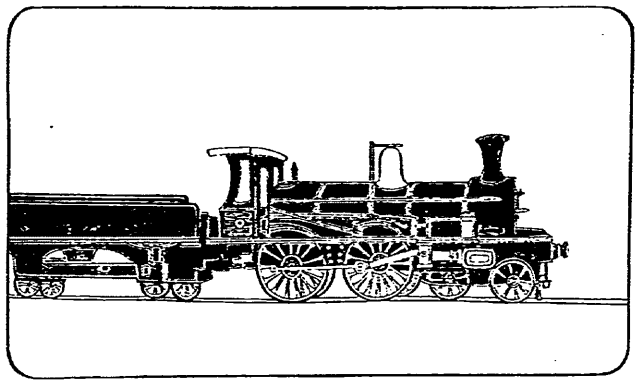
汝等

第三十二　滊車

滊車

外

近



あなたは、滊車にたのりなされたか。わたくしは、滊車にのりました。滊車にのりて、まどより外をながめますれば、近くにある木や、でん

K120.8

しんばしらは、うしろにはしるやうにみえますが、そほくの山などは、くるまについて、一つにはしるやうであります。

重習第十八

父母の恩愛は、山より高く、海より深し。

滊車の外の近きものは、うしろにむかひて、はしる。

明治二十七年十二月十八日印刷
明治二十七年十二月廿八日發行

編輯者　福岡縣福岡市博多下吳服町　鐵耕堂編纂部
發行兼印刷者　福岡縣福岡市博多下吳服町　鐵耕堂　竹田芝郎
發賣所　福岡縣福岡市糀屋町　高田芳太郎
同　山口縣赤間關市入江町　山名松次郎
同　山口縣厚狹郡舟木町　中原卯兵衛

定價七錢

版權所有